説話の二系列について

――打聞集、今昔物語、古本説話集、宇治拾遺物語の関係

高橋　貢

（一）

打聞集、今昔物語、古本説話集、宇治拾遺物語の四書の二書乃至三書には重複する説話があるが、この四書の相互に直接の出典関係があるという考え方は既に諸家によって否定されており、*筆者もまた同意見であるが、それにしても、この四書間には何らの系統的関係もないのか否かという疑問が残る。四書間に介在していた何らかの散佚文献があってそこから説話を引用したのであろうか、或は一話ずつ世上に口語られていたものからとり入れたのであろうか。この問題を考える方法として、本稿では四書の重複する説話のうち、三書に重複する説話をとり上げて比較検討する。

＊最近の研究では国東文麿氏（「宇治拾遺物語と先行説話集」国文学研究第十七輯）、今野達氏（「善家秘記と真言伝所引散佚物語」国語と国文学昭和三十三年十一月）等の論文がある。

（二）

四書のうち、三書に重複する説話は左の通りである。

打聞集	今昔物語 巻	今昔物語 話	古本説話集 話	宇治拾遺物語 巻	宇治拾遺物語 話
21	9	13		13	4
20	5	31		13	11
18	11	11		13	10
2	6	1		15	10
23	14	42	51		
13	4	24	63		
	16	37	57	6	4
	14	35	52	15	6
	19	40	49	7	4
	24	55	44	9	6
	24	43	41	12	13
	19	13	40	12	12
	27	2	27	12	15

19	17	16	16
11	47	30	28
69	61	59	58
6	15	11	7
7	7	7	5

右の表から分るように、三書に重複する場合を調べると、打聞集、今昔物語、古本説話集に重複する説話、打聞集、今昔物語、宇治拾遺物語に重複する説話、古本説話集、宇治拾遺物語、今昔物語に重複する説話の三通りに分ける事ができる。古本説話集、宇治拾遺物語、打聞集に重複する説話はない。以下この三通りの説話をそれぞれ比較検討してみる。

「註」以下使用する本文は、打聞集は改造文庫、古本説話集は岩波文庫、今昔物語と宇治拾遺物語とは国史大系本によった。

（三）

はじめに打聞集、今昔物語、古本説話集に重複する説話をとり上げて比較検討してみる。

古本説話集　第六十三	打聞集　第十三	今物昔語　巻四第二十四
㋑いまはむかし、りうず菩薩、ただの人におはしけるとき	□天竺①ニ竜樹菩ト申聖人ヲハシケリ。始ハ俗②ニヲハシ時	今昔、西天竺①ニ竜樹菩薩ト申ス聖人俗三人ヲ談アハセテ陰形③ノ薬㊀ヲ造ル。其薬ヲ造ナル様ハ
ぞく三人をかたらひあはせて、かくれみののくすりをつくる。そのくすりを㊀つくるやうは		
㋺やどり木を三寸④にきりて、かげに三⑤百日ほして、それをもちてつくる。	ヤドリ木を五寸④ニ切テ、影ボシ⑤ニ百日ホシテ、其レヲ以テ造ル薬ニナム有ル。	
そのほうを㊁ならひて、つくりける㊂也。その木をもとどりにたもちてす	其法ヲ学㊁テ造也。其ヤドリギ㊂ヲモトドリニサシツレバ、隠レ蓑ノ様ニ	

在シケリ。始メ俗②ニ在ケル時ニハ	外道ノ典籍ノ法ヲ習ヘリ。其時ニ俗三人有テ、語ヒ合セテ隠形③ノ薬㊀ヲ造ル。其薬ヲ造ル様ハ	
	宿生ヲ五寸④ニ切テ陰干⑤ニ百日⑥干テ、其レヲ以テ造ル薬ニナム有ケル。	
	其レヲ以テ其法ヲ習㊁テ、其ノ木㊂ヲ髻ニ持テレバ、隠レ蓑ト云ラム物ノ様	

れば、かくれみのやうに、かたちをかくすなり。さて、この三人のぞく、心をあはせて、⑦このかたちをかうべにして、王宮にいりぬ。もろもろのきさき、をかす。

形ヲ隠ス薬也ケリ。此三人ノ俗、心ヲ合テ、カノ陰⑦形ノ薬ヲ首ニ指テ、王宮ニ参ヌ。諸ノキサキ達ヲ犯。

ニ形ヲ隠シテ人見ル事無シ。而ルニ此ノ三人ノ俗心ヲ合セテ、此ノ隠⑦形ノ薬ヲ頭ニサシテ、国王ノ宮ニ入テ、諸ノ后妃ヲ犯ス。

㉘きさきたちは、めにみえぬ物の、しのびてよりくるよしを、みかどに申。

□サキ達、形ハ不レ見ヌ物ノノキテ、ケサウスレバ、各々畏テ王ドニシノビテ申。

后達、形ハ不レ見ヌ者ノ寄リ来テ触レバ、恐ヂ怖レテ国王ニ忍デ申ス。

時に、御かど、かしこくをはしける御かどにて、この物は、⑧かたちをかくしてあるくすりを、つくりてある物ども也。すべきやうは

王ド賢ク御坐人ニテ、此物ハ⑧御ガウヤクヲ造テ有物共ナナリ。スベキ様

近来形ハ不レ見ヌ者ノ寄リ来テ触ル者ナム有ルト。国王此ノ事ヲ聞テ、

智リ御ケル人ニテ思ヒ給フ様、此レハ⑧隠形ノ薬ヲ造テカク為ルニコソ有メレ。此レヲ可レ為キ様ハ

さらば、身はかくす物なりとも、あしかたつきて、ゆかん所は、しるくあらはれなむ、と㉔かまへられて、㉕はひをめして、ひまなくまかれて、この三人の物どもの

㉙はいをひまなく、宮のうちにまきてん。

サラバ身ヲ陰ス物ナリトモ足ガタノ付テイカム所、㉔シルク顕ナム、トテ㉚粉ヲ召テ宮ノ内㉕ニ、ユキノ降タル㉛ガ様ニマキツ。粉㉚ト云ハハウニナリ。此三人ノ物ノ

㉙粉ヲ宮ノ中ニヒマナクマキテム。

然レバ身ヲ隠ス者也ト云フトモ、足ノ形付テ行カム方ハ、騒ガシク顕ハレナムト㉔被レ擯テ、粉㉚ヲ多ク召テ宮ノ内㉛ニ隙無ク蒔ツ。粉㉚ト云ハ八ウニ也。此ノ三人ノ者宮ノ

㉙粉ヲ王宮ノ内ニ隙無ク蒔テム。

みやのうちにあるをりに、このはひ㊅をまきこめつれば、あしかたのあらはるるにしたがひて、たちぬきたる物どもをいれて、あしかたつ所を、〻しはかりにきりければ、二人⑫はきりふせつ。いま一人は、きささきの御ものすそを、ひきかづきて、ふし給て、おほくの願をたて給ふ。そ⑬のしるしにやあらん、二人をきりふせてければ、二人

宮ノ中ニ有ルヲリニ㊅囲籠。足影ノ顕ルルニ随テ、太刀抜タル物共ヲ入テ、足ガタノ付所ヲ推量テ切ケレバ二人ヲバ切伏ツ。⑫竜樹菩思ワビテ、キサキノ御モノスソヲヒキカヅキテ伏シ給テ、多願ヲ立給フケ⑬ニヤ有ム、切物二人ヲ切伏テケレバ、二人ニコソ有ケレ、トテ切サシテ去ヌ。

（後略）

内ニ有ル時ニ、此ノ粉ヲ蒔キ籠ツレバ、足ノ跡ノ顕ハルルニ随テ、太刀抜タル者共ヲ多ク入レテ、足跡ノ付ク所ヲ押量リテ切レバ、二人ハ切リ⑫伏ラレヌ。今一人ハ竜樹菩薩ニ在マス。被レ切レ佗ビテ、后ノ御裳ノ裾ヲ曳キ被ギテ臥シ給テ、心ノ内ニ多ノ願ヲ発シ給フ。⑬其ノ気ニヤ有リケム、二人切伏ラレヌレバ、国王然レバコソ隠形ノ

こそありけれ、とて、さりぬ。

（後略）

者也ケリ。二人コソ有ケレト宣テ切ル事ヲバ被レ止ヌ。

（後略）

右の比較対照で、①から⑬迄は打聞集・今昔物語の二書に比べて、古本説話集が特に相違している箇所であり、一方㊀から㊅迄は古本説話集・今昔物語の二書に比べて打聞集が特に相違している箇所である。これによると、打聞集が特に他の二書と相違する所は、説話の内容からはたいして重要ではない瑣末的な語句（つくるやう→造ナル様、ならひて→学テ、木→ヤドリギ、かまへられて→トテ、等）であり、固有名詞、数字、事物の相違はほとんどない。一方古本説話集が特に他の二書と相違する所は、地名（天竺→ナシ）、数字（五寸→三寸、百日→三百日）、事物（陰形ノ薬→かたちをかくしてあるくすり、粉→はい）等である。さらにその榊文についてみると、古本説話集だけ他の二書との相違が目立っている（いろはに）。即ちろでは打聞集、今昔物語の「其レヲ以テ造ル薬ニナム有ル」の点線の箇所が古本説話集にはない。はでは同様に「□サキ達、形ハ不レ見ヌ物ノキテ、ケサウスレバ（今昔は「触レバ」）各々畏テ王ドニシノビテ申ス」の点線の箇所が古本説話集にはない。又ほでは古本説話集は「はひをひまなく宮のうちに」となっているが、打聞集、今昔物語は「粉ヲ宮ノ中ニヒマナク」と語順が逆になっている。

この事は打聞集第二十三、今昔物語巻十四第四十二、古本説話集第五十一の間にも同様に言う事ができる。この説話は三書以外

に、今野達氏（前掲論文）が指摘されているように、真言伝にも記載されている。これら四書を比較対照する事によって、古本説話集のみ特に相違している箇所をあげると、

打聞集	今昔物語	真言伝	古本説話集
㋑①昔西三条大殿ノ御子君若御㋺ケリ。後ハ大将ニテ名ヲバ経行トナム申㋩ケル。童レド長大ニテ冠ヲモセデ御ケル㋥ガ、夜這ヲナムイミジキ好レ色テシ給ケル。	㋑今昔延喜ノ御代ニ西三条ノ右大臣ト申ス人御ケリ、御名ヲバ良相トゾ云ケル。其ノ大臣ノ御子㋺ニ、大納言ノ左大将ニテ常行ト云フ人御㋩ケリ。其ノ大将未ダ童ニテ勢長ノ時マデ冠ヲモ不レ着ズシテゾ御ケ	㋑西三条大臣ノ㋺子ニテ、常行ノ大将ト云人㋥ヲハシケリ。若君ニテ夜アリキヲナンイミジウシ給ケル。	㋑いまはむかし㋺さい三条どの㋥いみじう色このみにておはしましけり。㋩むかしのひとはおとなび給まで、御げんぷくなどもしたまはざりけるにこそ。

②我身 ③如レ先 ④ザウシニイキテ ⑤ナド苦ルシゲニハ御 ⑥ナニガシガセウトノ阿闍梨ニ云テ、コゾ	ケル。其ノ㋥人ノ形美麗ニシテ心ニ色ヲ好テ女ヲ愛念スル事並无カリケリ。然レバ夜ニナレバ家ヲ出テ東西ニ行クヲ以テ業トス。我ガ身前ノ如ク曹司ニ行テ何ゾ苦シ気ニハ御マスゾ去年己レガ兄弟ノ阿闍梨ニ云テ、尊勝陁	我身前ノ如ク曹司ニ行テ（ナシ）我セウトノ阿闍梨ニ云テ、去年是ノ真言	わかぎみおなじ事（ナシ）などかくはおはしますぞせうとのあざりにかかせて

真言書セテ	羅尼ヲ令レ書テ	ヲカヽセテ	りにかゝせて
⑦三四日許	三四日許リ	三四日許リ	二三日ばかり

即ち、打聞・今昔・真言伝の三書と比較して、古本説話集はとくに相違点が多い。古本説話集の二三日とあるものが他は悉く三四日である。又①では上段の三書がいろはにの順序、古本説話集はいにろはの順序である。②③では上段の三書が「我身」「如レ先」、古本説話集は「わかぎみ」「おなじ事」である。⑥では上段の三書は「ナニガシガセウトノ阿闍梨ニ云テ、コゾ此真言書セテ」（打聞集）で大体一致しているが、古本説話集は点線の箇所はない。

一方打聞集を他の三書に比べてみると、打聞集のみ欠けている箇所が数ケ所あるが、それを除くと他は少数の細かな語句の相違する程度である。固有名詞や数字等は今昔物語と真言伝とに一致している。

また今昔物語は他の三書に比べてみると、一体に語句が多い。例えば前表の「今昔延喜ノ御代ニ西三条ノ右大臣ト申ス人御ケリ。御名ヲバ良相トゾ云ケル。」の傍線の箇所は他の三書にはない。これは今昔物語独特の補填である。中国や我国の文献（例えば冥報記や三宝感応要略録）を出典として作られた説話にも、このような加筆が見られるのであって、こういう意識的加筆乃至改変と思われる箇所を除くと、今昔物語は固有名詞、数字、事物等ほとんど打聞集と一致している。

なお、真言伝のこの説話はあきらかに古本説話集より打聞、今昔と近い関係にある事が分るが、本稿では真言伝について細説をさける。

打聞、今昔、古本に重複する説話は以上例示した二話だけである。この比較によって、打聞集と今昔物語とは近い関係、古本説話集はこの二書と遠い関係にある事が分る。

（四）

次に打聞集、今昔物語、宇治拾遺物語に重複する説話をとり上げて比較検討してみる。

宇治拾遺物語巻十三第十	打聞集 第十八	今昔物語 巻十一第十一
むかし慈覚大師仏法をならひ伝へむとて、もろこしへわたり給ておはしけるほどに、	昔慈覚大師入唐時	（前略）
①いㇾ会昌年中に唐武宗仏法をほろぼして、堂塔をこぼち、僧尼をとらへてう	①会昌天子仏法破滅之被二宣下一者、分二使者一堂塔ヤブリ、法師共トラヘテ、	①会昌天子ト云フ天皇ノ代ニ、此ノ天皇仏法ヲ亡ス宣旨ヲ下シテ、寺塔ヲ

しなひ、あるひは還俗せしめ給乱にあひ給へり。

成レ俗。

破リ壊テ、正教ヲ焼キ失ヒ、法師ヲ捕テ令二還俗一ム。

②覚大師合二破滅之使一

使四方ニ相ヒ分レテ亡□。其時ニ②大師此ノ使ニ会ヌ。独身ニシテ随ヘル者无シ。

ろ大師をもとらへむとしけるほどに、にげてある堂のうちへ入給ぬ。

大師ヲ見付テ追取ムズ。大師逃テ堂内ニコモリ給。

使等大師ヲ見テ喜デ追フ。大師逃テ一ノ堂ニ内ニ入ヌ。

はその使③堂へ入てさがしける間

使開③レ堂アサルニ

使追来テ堂③ヲ開テ求ム。

㊀大師すべきかたなくて、仏の中に④にげ入て不動を念給

大師シ仏中ニ居④テ、不動尊ヲ念ジ奉リ給。使アマタ

㊀大師可レ為キ方无④クテ、仏ノ中ニ居④テ□求ム

けるほどに、つかひもとめけるに、あたらしき不動尊仏ノ御中におはしける。それをあやしがりていだきおろしてみるに、大師もとのすがたになり給ぬ。㊁使驚て御門にこのよしを奏す。御門仰られけるは、他国の聖也。すみやかに追はなつべしとおほせければはなちつ。大師喜て他国へ逃給に、遙なる山をへだてて人の

アサルニ⑤大師不ニ見給一ズ。只⑥新不動尊一丈ノ仏達チノ中イマスガリ。其奇カキ下テ見ル時ニ、大師大形ニ⑦成給ヌ。㊁使驚テ不レ成俗テ王奏ス。宣旨云、他国ノ聖也。速ニ追逃テヨト免。大師悦テ他国ニ逃シメ給間、⑧玄ル山隔テテ人ノスミカアリ。⑨城高付キテメグリ⑩堅固タリ。一面二門有り。（後略）

ルニ僧⑤不レ見ズ。只⑥新キ不動尊一体□見ル時ニ、大師本ノ形ニ成テ在マス。（中略）使恐レテ⑦令二還俗一ル事ヲバ暫ク止メテ、㊁天皇ニ此ノ由ヲ奏ス。宣旨ニ云ク、他国ノ聖也、速ニ可二追乗一シト。然レバ使大師ヲ免ツ。大師喜ビテ其ノ所ヲ走リ去テ他ノ国へ逃ル間ニ、遙ナル山ヲ隔テ人ノ⑧栖有リ。見レバ

⑧家あり。⑨つゐぢたかくつきめぐらして一の門あり。（後略）	⑨城固ク築キ籠テ廻リ⑩強ニ固メタリ。一面ニ門有リ。（後略）

右表で①から⑩迄は打聞集・今昔物語の二書に比べて、宇治拾遺物語が特に相違している箇所であり、一方㋑㋺は宇治拾遺物語・今昔物語の二書に比べて、打聞集が特に相違している箇所である。これによると、打聞集が相違している所は、語句の欠けている箇所のある事（大師すべきかたなくて——→ナシ、このよしを奏す——→奏ス）であるが、それらを除くと固有名詞、数字等はほとんど今昔物語と一致している。宇治拾遺物語も他の二書と比べて欠けている箇所は多い（覚大師合ニ破滅え使ー——→ナシ、大師不ニ見給ーズ——→ナシ、不レ成レ俗テ——→ナシ）。しかしそれ以外に、固有名詞（会昌天子——→唐武宗）、事物（スミカ——→家、城——→つゐぢ）等、著しい相違がある。また構文を見ても、いろはのように打聞集と今昔物語との二書に比べて、宇治拾遺物語の相違が目立っている。

今昔物語は他の二書に比べて語句が多い。しかしそれらは前述したような今昔物語独特の意識的加筆、改変と考える事ができ、それらの箇所を除くと、固有名詞、事物等ほとんど打聞集と一致している。

以上の性格は打聞集第二十、今昔物語巻五第三十一、宇治拾遺物語巻十三第十一についても同様に言う事ができる。この説話を打聞集について大要を言うと、ある僧が山の穴を通り抜けてこの世ならぬ世界に行き、そこで花を食べて帰ろうとしたが、体が肥えて穴から出る事ができなかったという話である。この説話は今昔物語では多少内容に相違がある。今昔の話は大部分が大慈恩寺三蔵法師伝を原拠にしているかと思われ、話の主人公が牛飼（三蔵法師伝は牧牛人）であるが、打聞集と宇治拾遺物語とは主人公が僧となっていることをはじめ、内容に相違があり、三蔵法師伝とは相当離れたものとなっている。三書とも源流は三蔵法師伝あたりから出たと思われるが、我国で口承されるうち、三書各々の変化を生んだものと考えられる。

さて今昔物語と打聞集、宇治拾遺物語とはこのような大きな相違があるが、今昔物語の文中二ケ所だけ打聞集、宇治拾遺物語に近い箇所がある。即ち

宇治拾遺物語	打聞集	今昔物語
①かた山 ②見まはせばあらぬ世界とおぼえて、見もしらぬはなの色いみじきがさきみだれたり	片山 ㋺見バ、天竺ニモ不レ似㋩花開タリ。	片山 ㋺天竺ニモ不レ似㋩目出タキ花盛ニ開ケテ菓満タリ。

①は三書一致している。②はいろはについて打聞集と今昔物語とが大体一致するが、宇治拾遺物語は表現に違いがある。この事から打聞集と今昔物語とは宇治拾遺物語より幾分近い関係にあると考える事ができる。

以上によって打聞集と今昔物語とは一致する箇所が多いのに対し、宇治拾遺物語のみそれらと相違する箇所が多い事が知る事ができる。この事はこの三書に重複する他の説話についても同様に言う事ができるのであって、結局、打聞集と今昔物語とは近い関係、宇治拾遺物語はこの二書より遠い関係にあるということができると思う。

（五）

以上により、打聞集と今昔物語とは古本説話集、或は宇治拾遺物語より近い関係にある事が分ったが、次に古本説話集と宇治拾遺物語にはどのような異同が見られるであろうか。古本説話集、宇治拾遺物語、今昔物語の三書を比較検討してみよう。例として堀川大臣の重病に際し、極楽寺のある僧が仁王経を読誦した為に病が癒えたという、三書共通話を引き、その本文を対照してみる。（古本説話集第五十二＝(A)、宇治拾遺物語巻十五第六＝(B)、今昔物語巻十四第三十五＝(C)とし、これに考察の便宜上、真言伝＝(D)を加えておく。）

昔、堀川太政大臣が病にかかられた時、世のあらゆる僧が祈禱に召された。所が極楽寺はこの殿の造られた寺である。

(A)	(B)	(C)	(D)
①そのてらにすみける僧ども、御いのりせよといふ仰もなかりければ、御しんにもめさず。	その寺にすみける僧共、御いのりせよといふ仰もなかりければ、人もめさず。	其レニ此ノ極楽寺ノ僧ハ世ニ貴キ思エモ无ケレバ、此許ノ御祈共ニ召シモ无シ。	ソノ寺ニスミケル僧ノキヨシト云オボエモナカリケレバ、御祈ニモ召モナシ。

その時、ある僧の思うのには、この寺にやすらかにすめるのはこの殿の御徳によるものだ、お召しがなくとも参ろうと、仁王経を具して殿に参って、

(A)	(B)	(C)	(D)
②ちうもんのきたのろうのすみにかゞまりゐて、つゆめも見かくるひともなきに	中門の北の廊のすみにかゞまりゐて、つゆめもみかくる人もなきに、仁王経を	中門ノ北ノ廊ノ角ニ屈リ居テ、他ノ思ヒ无ク念ジ入テ、仁王経ヲ読誦シテ祈リ	中門ノ北ノ廊ノ角ニカガマリ居テ、ツユ他念ナクヨミ奉ル。殿ノ中ノ人々前ヲク

他念なくよみ奉る。	奉ルニ、殿ノ内ノ人前ヨリ返々ル通リ行ケドモ、露目見係ル人无シ。	ルクルトアリケドモ、目ニモカクル人モナシ。	

二時程たって、殿が極楽寺の僧を呼べと仰せられた。人々は不思議に思って

(A)	(B)	(C)	(D)
③そこばくの僧をめすことなし、まいりてゐたるを、よしなしとみゐたるほどに	そこばくのやんごとなき僧をばめさずして、かく参りたるをだによしなしとみゐたるをしも	ⓥ此ノ僧貴シト云フ思エモ无ケレバ、若干ノ僧ヲ召スニモ无キニ参テ居タルダニ不レ得レ心ズト思フニ、	ⓥキヨシト云オボエモナケレバソコバクノ僧ヲメスニ、メシモナキニ参リテキタルヲダニヨシナシトミルニ、

殿の仰せがあったので、その僧にお召しのよしをいうと

(A)	(B)	(C)	(D)
④まいる。 (後略)	まいる。 (後略)	ⓥ僧召ス人ノ後ニ立テ参ル。 (後略)	ⓥ召ス人ノ後ニタチテ参ル。 (後略)

右表で①②③④はいずれも古本説話集と宇治拾遺物語とは今昔、真言伝より表現の類似性が強く、一方今昔物語と真言伝とは古本、宇治拾遺より類似性が強い。即ち①では、ⓥは古本、宇治が一致しており、ろはは今昔、真言伝が一致している。中でもろの「キヨシト云オボエモナケレバ」、はの「御祈ニモ」は今昔、真言伝だけにあって、古本、宇治にはない。②では、ⓥは古本、宇治が一致しており、ろは今昔、真言伝が一致している。ろの「殿ノ中ノ人々前ヲクルクルトアリケドモ」は今昔、真言伝だけにあって、古本、宇治にはない。③は古本、宇治と今昔、真言伝とでは表現が相違している。中でもⓥの「キヨシト云オボエモナケレバ」は今昔、真言伝だけにあって、古本、宇治にはない。④ではⓥの「召ス人ノ後ニタチテ」は今昔、真言伝だけにある。

このように、古本説話集と宇治拾遺物語とは共通する表現を持ちつつ、今昔、真言伝と相違する箇所が幾つか認められ、又今昔物語と真言伝とは共通する表現を持ちつつ、古本、宇治拾遺と相違する箇所が幾つか認められる。この事は更に古本説話集第六十一、宇治拾遺物語巻十五第七、今昔物語巻十七第四十七について

言う事ができる。この説話は、伊良緑の世恒（今昔物語では生江ノ世経）が毗沙門の霊験によって富裕になる話である。固有名詞と数字の相違箇所だけをとりあげると、

古本説話集	宇治拾遺物語	今昔物語
①びさもん	毗沙門	吉祥天女
②なりた	なりた	修陁
②百丁	百町	（ナシ）
④米二斗	米二斗	米三斗
⑤とし三十	とし三十	年四十

の如くで、古本説話集と宇治拾遺物語とは一致しており、今昔物語のみ相違している。

以上によって、古本説話集と宇治拾遺物語とは一致する箇所が多いのに対し、今昔物語のみそれらと相違する箇所が多い事が知る事ができる。この事はこの三書に重複する他の説話についても同様に言う事ができるのであって、結局、古本説話集と宇治拾遺物語とは近い関係、今昔物語はこの二書より遠い関係にあるという事ができると思う。

（六）

四書に重複する説話を比較検討した結果、打聞集、今昔物語の表現は古本、宇治拾遺よりも近く、古本説話集、宇治拾遺物語の表現は今昔物語よりも近い事が判明したが、四書の表現の持つこれらの現象を、その各々に直接出典関係のないという事に考えあわせてみた場合、どのような解釈が成り立つであろうか。結局、考えられうる事は打聞集、今昔物語のこれらの説話（真言伝の右の二話も含まれてる）と、古本説話集、宇治拾遺物語のこれらの説話とは、表現の異る別々の系列に属していたという事ができると思う。

ところで、この四書の関係として、その各々の間に散佚文献が仲介していたであろうという説もあり、又口語り説話を各書別々にとったという説もある。前者の説をとるにしても、その散佚文献は表現の異る今昔物語と古本説話集、或は宇治拾遺物語との間を仲介しえず、又打聞集と古本説話集、或は宇治拾遺物語との間を仲介しえないものであると言わなければならない。又後者の説をとった場合、各書が全く無関係の口語りを集めていたならば、表現のあきらかな相違は出て来ないであろう。口語り説話には何か組織的伝承があったという事ができよう。

なおこの事については四書各々の説話の配列順序からもいう事ができるが、別稿に譲る。

また四書になぜ表現の共通の相違が見られるに到ったか、その起因についても別稿に譲りたい。